



MS

MORIOKA
SHINKIN

*Report of
Business forecasting*

vol.69

- 景況調査…1～12
- 特別調査
「中小企業の事業承継」について…13～14

MORIOKA SHINKIN BANK

景況レポート

2007.10.20 発行

平成19年7月～9月期

平成19年10月～12月期 見通し

ホームページアドレス

<http://www.morishin.co.jp/>

調査の要領

(業種別調査企業数と回答数の内訳)

	対象企業	回答数
製造業	63	61
卸売業	25	22
小売業	96	96
飲食業	32	30
サービス業	54	52
運輸業	13	12
建設業	53	50
不動産業	20	19
合計	356	342

- 調査時期 9月上旬
- 調査内容 平成19年7月～9月の景況
平成19年10月～12月の見通し
- 調査方法 当金庫職員による聞き取り調査
- 調査対象 当金庫の取引先
- 回答数 342先(回答率96.07%)
(回収不能 14先)

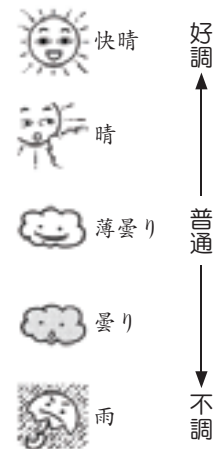
お忙しい中、ご協力いただきまして大変ありがとうございました。お問い合わせは最寄りの営業店、または企画部《☎(019)623-2221》までお願いします。

次回調査(12月上旬予定)にも、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

景況天気図

(景況調査の概況①)

	平成19年4～6月期	平成19年7～9月期	平成19年10～12月期 見通し
全業種 (総合)			
製造業			
卸売業			
小売業			
飲食業			
サービス業			
運輸業			
建設業			
不動産業			



※この天気図は景況指数を総合的に判断して作成したものです。

景況総合判断指数(DI)

平成19年 7~9月

前期 *DI	当期(平成19年4月~6月期に比べて)				景況	見通し(平成19年10月~12月期)			
	増加	普通	減少	*DI		増加	普通	減少	*DI
-41	13	40	47	-36	業況	10	43	47	-41
-22	26	32	42	-20	売上高	22	40	38	-25
-32	19	36	45	-29	収益	18	42	40	-30
-15	10	68	22	-13	販売請負価格	9	71	20	-12
26	36	55	9	25	材料仕入価格	32	60	8	21
-2	10	77	13	-2	在庫	7	79	14	-8
-36	4	54	42	-40	資金繰り	4	56	40	-37
-9	7	77	16	-8	残業時間	9	76	15	-9
-7	12	69	19	-6	人手	11	71	18	-4
-6	7	77	16	-12	設備の状況	6	77	17	-10

*DI(Diffusion Index)は、増加企業割合から減少企業割合を差し引き、不変(普通)部分を除いて景況を判断しようとするものです。

*「季節調整済DI」は、1年を周期として季節的な変動を繰り返すDIから、季節の変動を除去した動向指数です。

増加・普通・減少は右のように置き換えます。

	増加	普通	減少
業況	良い	普通	悪い
価格	上昇	変わらず	下降
在庫・人手・設備の状況	過剰	適正	不足
資金繰り	楽	変わらず	苦しい

業種別業況動向

(景況調査の概況②)

	平成19年4~6月期		平成19年7~9月期		平成19年10~12月期	
	実績	前期予想	実績	前期予想	見通し	
全業種(総合)	-41	-31	-36	-41	-41	—
製造業	-29	-14	-23	-34	-40	—
卸売業	-36	-38	-29	-22	-36	—
小売業	-45	-37	-42	-36	-44	—
飲食業	-71	-53	-60	-53	-56	—
サービス業	-41	-30	-36	-37	-28	—
運輸業	-29	-18	-31	-41	-26	—
建設業	-38	-36	-24	-41	-44	—
不動産業	-36	-11	-44	-44	-46	—

*DIは季節調整済 *それぞれの右欄は前期に予想したDIを示す

景況

◆景況は緩やかに悪化傾向を弱める

今期(平成19年7月～9月期)の景況は、全業種総体で前期の悪化傾向を強めるから一転し、悪化傾向を弱めました。業種別では運輸業を除く他の業種で前期に比べ改善し、総体としては、悪化傾向を弱めました。

業況判断指数(季節調整済DI)は、全業種で-36と前期の-41から5ポイント上昇し悪化傾向を弱めました。製造業は-23と前期の-29から6ポイント上昇し悪化傾向を弱めました。また非製造業も運輸業が-31と前期-29から2ポイント下降し悪化傾向をわずかに強めたものの、全体として-38と前期の-44から6ポイント上昇し悪化傾向を弱めました。

売上額は、-20と前期の-22から2ポイント上昇し減少傾向を弱めました。

収益は、-29と前期の-32から3ポイント上昇し減少傾向を弱めました。

価格面は、販売価格は-13と前期の-15から2ポイント上昇したのに対し、仕入価格は25と前期26から1ポイント下降し上昇傾向をわずかに弱めました。

資金繰りは、-40と前期の-36から4ポイント窮屈感が強まりました。

業種別の業況は、製造業が6ポイント、卸売業が7ポイント、小売業が3ポイント、飲食業が11ポイント、サービス業が5ポイント、建設業が14ポイントそれぞれ上昇し悪化傾向を弱めたのに対し、運輸業は2ポイント、不動産業は8ポイントそれぞれ下降し、悪化傾向を強めました。

経営上の問題点は、「売上の停滞・減少」が58%と横ばいで推移し、「同業者間の競争の激化」は43%と1ポイントわずかに下降し、「利幅の縮小」は31%と1ポイントわずかに上昇しました。

来期の見通し

◆景況は緩やかに悪化

来期(平成19年10月～12月期)の景況は、総体的には悪化傾向を強めるとみえています。業種別では飲食業、サービス業が今期に続き悪化傾向を弱め、運輸業でも悪化傾向を弱めるとみえています。製造業、卸売業、小売業、建設業、不動産業が悪化傾向を強めるとみており、総体的には緩やかに悪化するとみえています。

業況判断指数は、-41と今期に比べ5ポイント悪化すると見えています。

売上額は、-25と今期に比べ5ポイント減少傾向を強め、**収益**は-30と今期に比べ1ポイント下降し、わずかに減少傾向を強めるとみえています。

価格面では、販売価格は-12と今期に比べわずかに1ポイント上昇しますが、仕入価格は21と4ポイント下降し、利幅は増加するとみえています。

資金繰りは-37と今期に比べ3ポイント上昇し窮屈感は緩和するとみえています。

業種別の業況判断は、製造業、卸売業、小売業、建設業、不動産業で悪化傾向を強めますが、飲食業、サービス業、運輸業では悪化傾向を弱めるとみえています。

雇用の動き

人手は、今期-6と1ポイントわずかに不足傾向を弱めました。来期も-4と2ポイント不足傾向を弱めるとみえています。

残業時間は、今期-8と前期-9に比べて1ポイントわずかに減少傾向を弱めますが、来期は-9と1ポイント減少傾向を強め、横ばい状態で推移しそうです。

在庫、設備投資の動き

在庫は、今期-2と横ばいで推移しましたが、来期は-8と6ポイント不足傾向を強めるとみえています。

設備の状況は、今期-12と6ポイント不足感を強めました。来期は-10と2ポイント不足感を弱めるとみえています。設備投資を実施した先は、今期、全業種総体で事業用土地建物を中心に18%で前期に比べて2ポイントわずかに減少しました。来期は機械設備の更改を中心に13%の先が実施予定とし、今期に比べ5ポイント減少する見通しから、依然投資意欲は低い状態が続くとみえています。

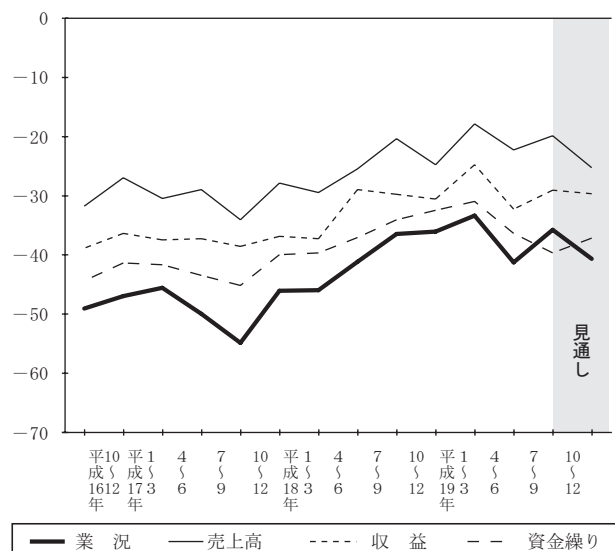
業種別では、今期卸売業、小売業、建設業で上昇しましたが、製造業、飲食業、サービス業、運輸業で減少しました。来期はサービス業が上昇し、運輸業は横ばいで推移すると見えますが、その他の業種で減少するとみており、総体的に投資意欲はさらに弱まりそうです。

借入金の状況については、今期借入れ実施割合が5割を超えたのは卸売業のみで、製造業は横ばいで推移し、小売業で1ポイント、建設業で3ポイント上昇しましたが、卸売業で4ポイント、飲食業で16ポイント、サービス業で6ポイント、運輸業で25ポイント、不動産業で6ポイント下降しました。全業種総体では28%の実施となり4ポイント減少しました。来期は製造業と建設業が横ばいで推移する予定で、卸売業、飲食業、運輸業で上昇しますが、小売業、サービス業、不動産業で減少し、全業種総体では2ポイント減少の26%の先が借入を予定しています。

借入れの難易度は、「難しい」が25%となり、前期より3ポイント上昇しました。

■景況の推移

*前期比：DI・季節調整済



* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、木材・木製品製造業、出版・印刷・同関連産業で悪化傾向を強めました。一方食料品製造業は悪化傾向を弱め、窯業・土石製品製造業は前期比30ポイント改善しました。また建設用・建設用金属製品製造業は今期プラスに転じ、家具・装備品製造業、その他の製造業は横ばいで推移しました。全体としては-23と前期と比べて6ポイント悪化傾向を弱めました。売上額は減少傾向を強めましたが、収益は減少傾向を弱めました。価格面では、販売価格は横ばいで推移し、原材料価格は上昇傾向を強めたことからさらに利幅が縮小しました。原材料在庫は不足感が強まりました。資金繰りはさらに窮屈感が強まりました。残業時間は減少傾向に転じました。人手はほぼ横ばいで推移しました。設備の状況は不足感を強め、設備投資を実施した先は機械設備の新・増設を中心に20%にとどまり、前期より3ポイント減少しました。

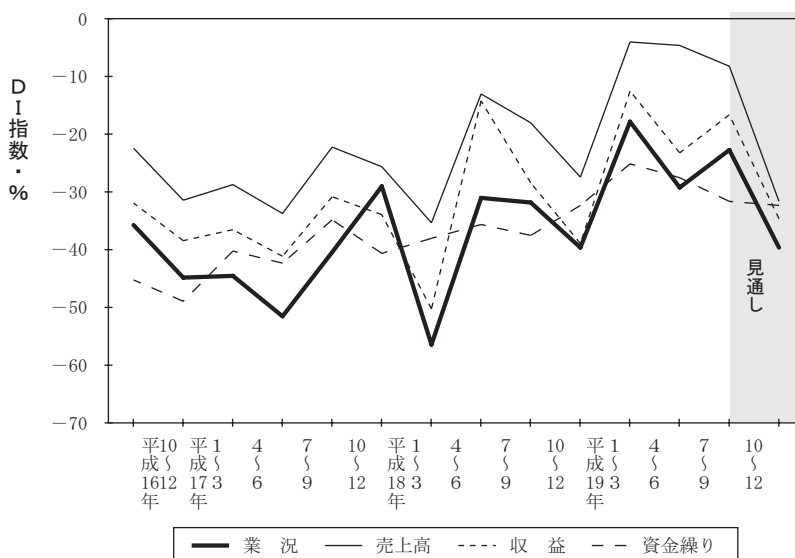
来期の見通し

業況は、-40と17ポイント下降し悪化傾向が強まりそうです。出版・印刷・同関連産業で悪化傾向を弱め、家具・装備品製造業は横ばいで推移するとみています。一方木材、木製品製造業、窯業・土石製品製造業で大きく悪化傾向を強め、食料品製造業、建設用・金属製品製造業、その他の製造業でも悪化傾向を強めるとみており、全体的には悪化傾向を強めそうです。売上げは、-32と24ポイント大きく減少傾向を強め、収益も減少傾向を強めそうです。価格面では、販売価格が下降傾向を強め、原材料価格で今期は上昇傾向を強めましたが、来期は下降傾向を強めそうです。原材料在庫は不足感が強まりそうです。資金繰りは横ばいで推移するとみていますが、今期に続き窮屈感が続きそうです。残業時間は大きく減少しそうです。人手は過剰感に転じそうです。設備投資についてはほぼ横ばいで推移するとみており、機械設備の更改を中心に18%の先が実施の予定とし、2ポイント減少するようです。

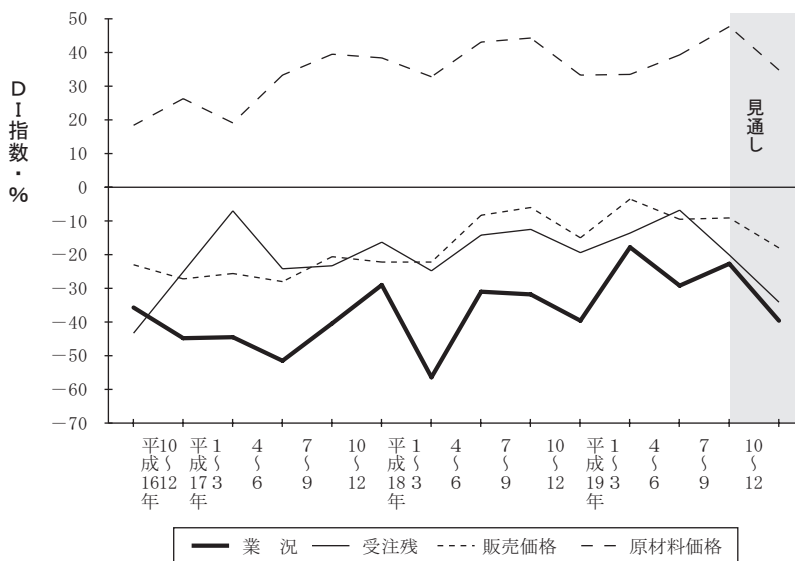
調査員のコメント

- 受注面は安定して維持しているが、原材料の高騰、販売納入先からの値下げ要請もあり、利幅の確保が課題である。
(金属製品製造業)
- 官公庁からの受注は減少しているが、民間からの受注に主眼を置いて営業展開し売上伸ばしている。最新鋭印刷機の導入による特殊印刷の受注にも力を入れている。
(出版・印刷・同関連産業)

■景況の推移



■主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

○今期(19年7月~9月) ●前期(19年4月~6月期)

		△100	△90	△80	△70	△60	△50	△40	△30	△20	△10	0	10	20	30	40
食料品	業況															●○
その他製造業	業況															○●
出版・印刷・同関連産業	業況															○●

経営上の問題点	1位	売上の停滞・減少(1)	51%
	2位	同業者間の競争の激化(3)	33%
	2位	原材料高(4)	33%

当面の重点経営施策	1位	経費を節減する(1)	64%
	2位	販路を広げる(2)	59%
	3位	情報力を強化する(3)	25%

* ()は前回順位

* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、機械器具卸売業で今期マイナスに転じ悪化傾向を強めました。一方農畜産物・水産物卸売業、食料・飲料卸売業、建築材料卸売業は悪化傾向を弱めました。全体として-29と前期と比べて7ポイント悪化傾向を弱めました。売上額、収益はともに減少傾向を弱めました。価格面では、販売価格が上昇傾向を強め、仕入価格はわずかに上昇傾向を弱めたことから、利幅は増加傾向を強めました。在庫は過剰感を弱めました。資金繰りは窮屈感が強まりました。残業時間は大きく増加傾向に転じました。人手は過剰感が強まりました。設備の状況は不足に転じました。設備投資を実施した先は車両などで、前期より1ポイント上昇しわずかに増加しました。

来期の見通し

業況は、機械器具卸売業で大きく悪化傾向を強め、また農畜産物・水産物卸売業、食料・飲料卸売業、建築材料卸売業でも悪化傾向を強めそうです。全体としては-36と7ポイント悪化傾向が強まるとみています。売上額は減少傾向を強めそうですが、収益は減少傾向を弱めるとみています。価格面では、販売価格は今期に続き上昇傾向が強まり、仕入価格も上昇傾向が強まるとみています。在庫は過剰感から不足感に転じそうです。資金繰りは窮屈感が弱まるとみています。残業時間は増加傾向が強まりそうです。人手はわずかに過剰感が弱まるとみています。設備の状況は不足感が弱まりそうです。設備投資については事業用土地建物、車両を中心に9%の先が実施の予定としていますが、9ポイント減少しさらに投資意欲が減退するようです。

調査員のコメント

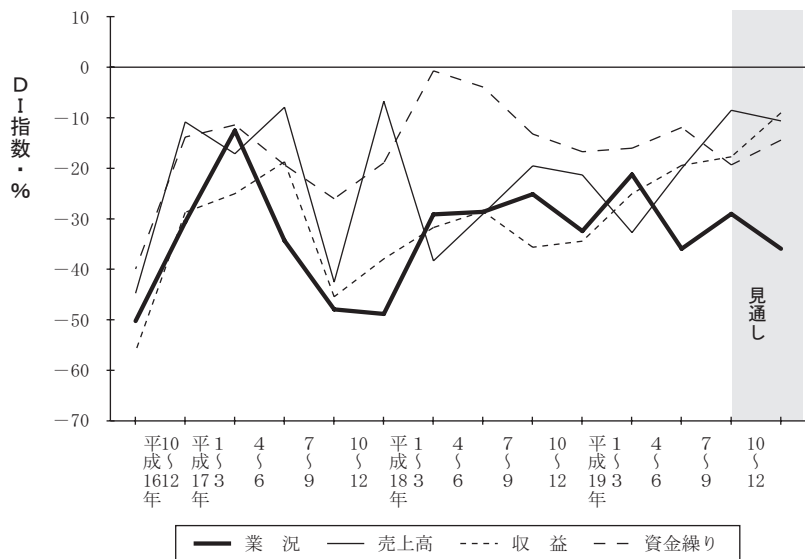
■ 手芸のセミナー等を開催し、顧客増加に努力中である。今後の販路拡大に期待する。

(機械器具卸売業)

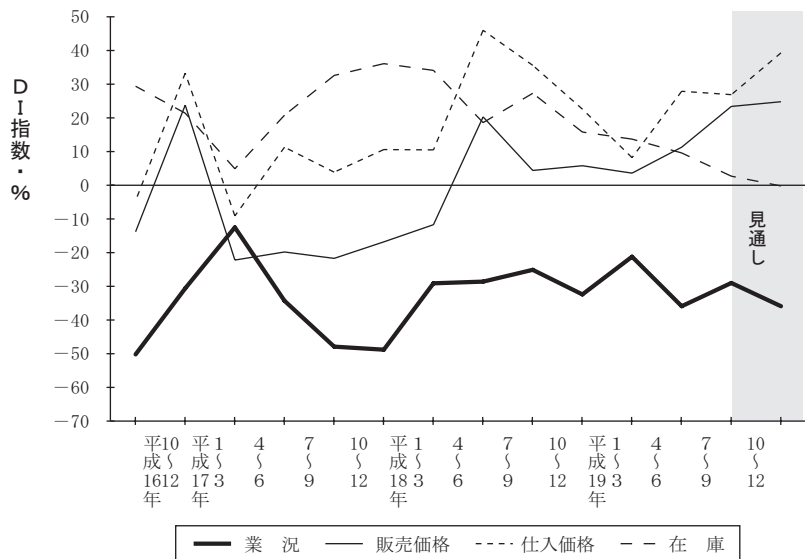
■ 業況低迷しているが、冬場にかけて売上が見込まれ、収益についてもやや増加見込まれる。

(建築材料卸売業)

■ 景況の推移



■ 主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

○今期(19年7月~9月) ●前期(19年4月~6月期)

		△100	△90	△80	△70	△60	△50	△40	△30	△20	△10	0	10	20	30	40	
農畜産物・水産物	業況																● → ○
食料・飲料	業況																● → ○
機械器具	業況																○ ← ●

経営上の課題点	1位	売上の停滞・減少(1)	13社 (59%)
	2位	同業者間の競争の激化(2)	9社 (41%)
	3位	利幅の縮小(3)	6社 (27%)

当面の重点経営施策	1位	販路を広げる(1)	18社 (82%)
	2位	経費を節減する(2)	15社 (68%)
	3位	品揃えを充実する(6)	5社 (23%)

* ()は前回順位 * 対象企業総数は22社

* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、繊維・衣服・身のまわり品小売業、自動車・自転車小売業、医薬品・化粧品小売業、燃料小売業、写真機・時計・眼鏡・貴金属小売業、その他の小売業で悪化傾向を強め、医薬品・化粧品小売業では良好傾向を大きく弱めました。一方飲食料品小売業、家庭用機械・電気機械器具小売業、書籍・文房具小売業で悪化傾向を弱め、木材・建築材料小売業は横ばいで推移しました。全体としては-42と3ポイント悪化傾向を弱めました。売上額は減少傾向を弱め、収益は横ばいで推移しました。価格面では、販売価格は下降傾向を弱め、仕入価格は大きく上昇傾向を強めました。在庫は過剰に転じました。資金繰りはさらに窮屈感が強まりました。残業時間は減少傾向を弱めました。人手も不足感を弱めました。設備の状況はほぼ横ばいで推移し、設備投資を実施した先は車両を中心に16%と前期に比べて4ポイント上昇しました。

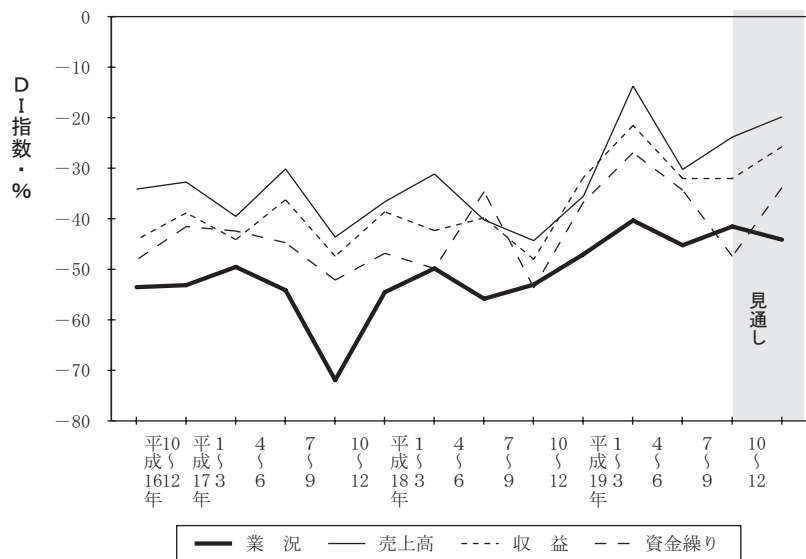
来期の見通し

業況は、繊維・衣服・身のまわり品小売業、燃料小売業、写真機・時計・眼鏡・貴金属小売業、その他の小売業で悪化傾向を弱めそうです。一方飲食料品小売業、自動車・自転車小売業、家庭用機械・電気機械器具小売業、医薬品、化粧品小売業、書籍・文房具小売業、木材建築材料小売業は悪化傾向を強めるとみえており、全体的には-44と2ポイント悪化傾向を強めそうです。売上額は今期に続きさらに減少傾向を弱めそうです。収益は今期横ばいから減少傾向を弱めるとみえています。価格面では、販売価格は下降傾向を強めるとみえており、仕入価格は上昇傾向が弱まりそうです。在庫は不足に転じそうです。資金繰りは窮屈感が緩和されるとみえています。残業時間は今期に続き減少傾向を弱めそうです。人手はほぼ横ばいで推移しそうです。設備の状況はわずかに不足感が強まり、設備投資については、車両を中心に実施予定が8%と今期に比べて8ポイント減少するとみえており、投資意欲はさらに低迷しそうです。

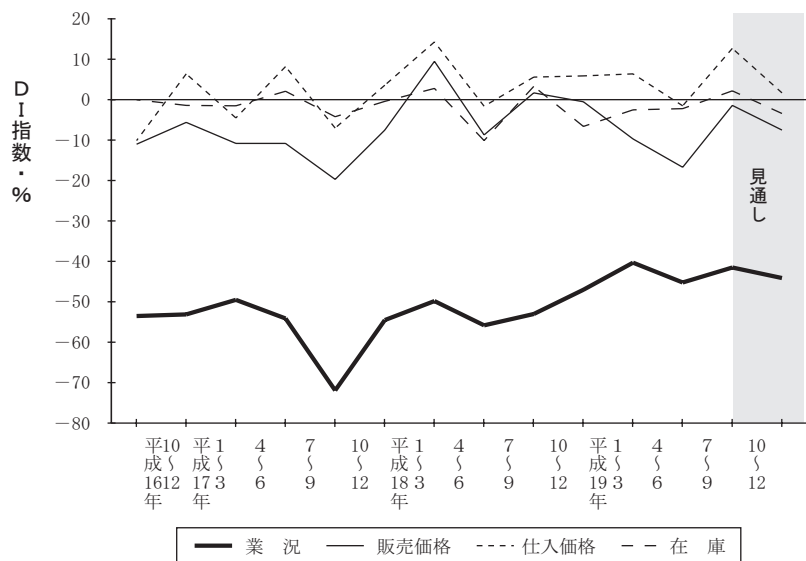
調査員のコメント

- 今年の夏は暑かったため、夏物の売上がやや増加したと思われる。残暑が厳しく仕入れた秋ものは売り上げに結びついていない。固定客への電話セールスで頑張っている。(繊維・衣服・身のまわり品小売業)
- 社長自ら経費節減の姿勢で取り組んでいる。またホームページを活用した経営で注文も多く、固定客も多いので安定している。(その他の小売業)

景況の推移

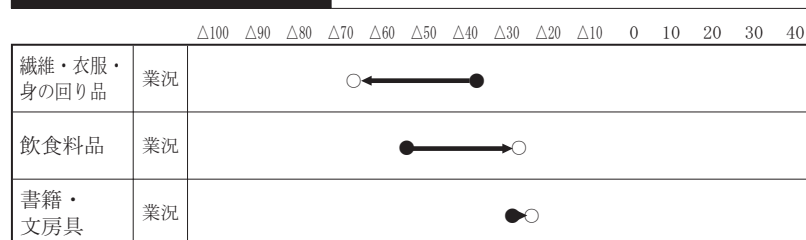


主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

○今期(19年7月~9月) ●前期(19年4月~6月期)



経営上の課題点	順位	内容	割合
経営上の課題点	1位	売上の停滞・減少(1)	54%
	2位	大型店との競争の激化(2)	38%
	3位	同業者間の競争の激化(3)	35%

当面の重点経営施策	順位	内容	割合
当面の重点経営施策	1位	経費を節減する(1)	69%
	2位	売れ筋商品を取り扱う(3)	35%
	3位	品揃えを改善する(2)	33%

* ()は前回順位

* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、-60と11ポイント大きく悪化傾向を弱めました。売上額は-44と前期比8ポイント減少傾向を強め、収益は-52と前期比3ポイント減少傾向を弱めました。価格面では、販売価格は-28と19ポイント下降傾向を強めました。仕入価格は13と28ポイント上昇傾向を大きく弱めました。在庫は不足感を強めました。資金繰りは-69と13ポイント窮屈感を強めました。残業時間は-13と6ポイント減少傾向を強めました。人手は-11と14ポイント不足感を弱めました。設備の状況は-15と2ポイント不足感を強めました。設備投資を実施した先は事務機器で3%と前期に比べ7ポイント減少しました。

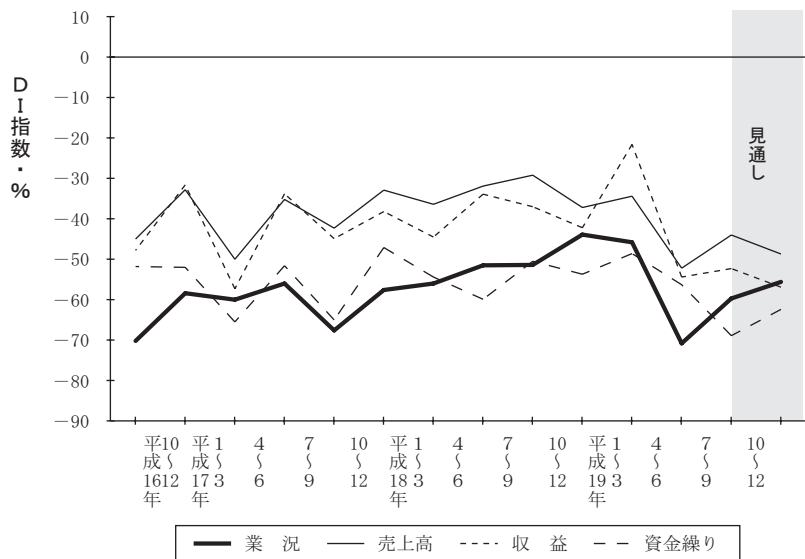
来期の見通し

業況は-56と今期に比べ4ポイント悪化傾向が弱まるとみえています。売上、収益はともに減少傾向を強めそうです。価格面では、販売価格は下降傾向を弱め、仕入価格は上昇傾向が強まるとみえています。在庫は不足感が強まるとみえています。資金繰りは窮屈感が弱まりそうですが依然厳しい状態が続くとみえています。残業時間は減少傾向を弱めそうです。人手は不足感を強めそうです。設備の状況は不足感が強まるとみえています。設備投資については、事務機器を中心に実施予定が7%で4ポイント増加しそうですが、投資意欲は依然低迷したままとなりそうです。

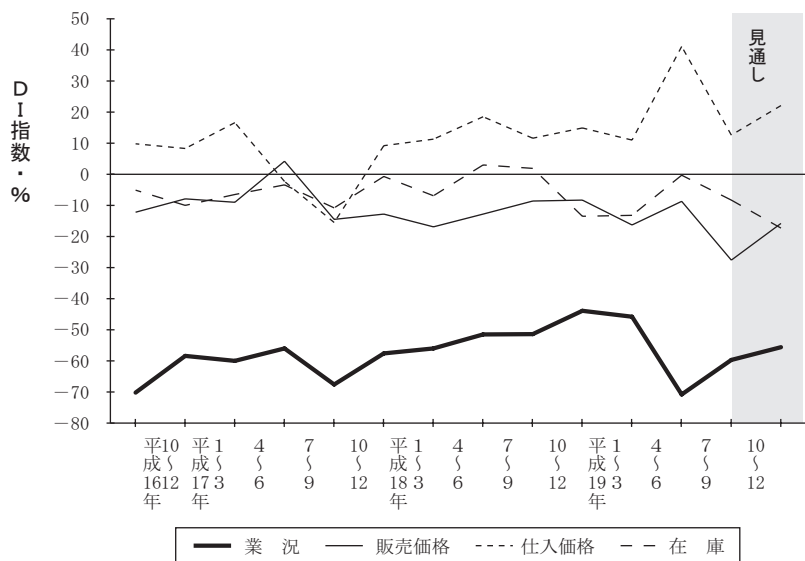
調査員のコメント

- 夏場は例年売り上げが減少するが、新メニューを出して努力している。
(そば・うどん・丼類小売業)
- 今年は比較的暑い日が続き、焼肉・冷麺の売り上げが、昨年同時期より伸びた。
(焼肉・冷麺小売業)

■ 景況の推移



■ 主な指標の動き

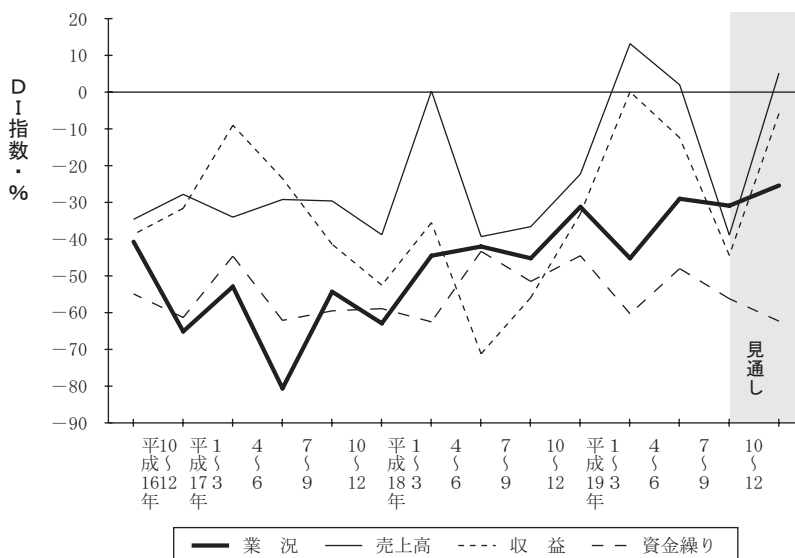


* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、-31と2ポイント悪化傾向を強めました。売上額は-39と41ポイント大きく減少傾向を強めマイナスに転じました。収益も-45と32ポイント減少傾向を強めました。価格面では、料金価格は横ばいで推移し、材料価格は14ポイント上昇傾向を強めました。資金繰りは窮屈感を強めました。残業時間は減少傾向を強めました。人手は不足傾向を強めました。設備の状況は過剰感が強まりました。設備投資を実施した先は車両で8%となり、前期に比べて25ポイント減少しました。

■景況の推移

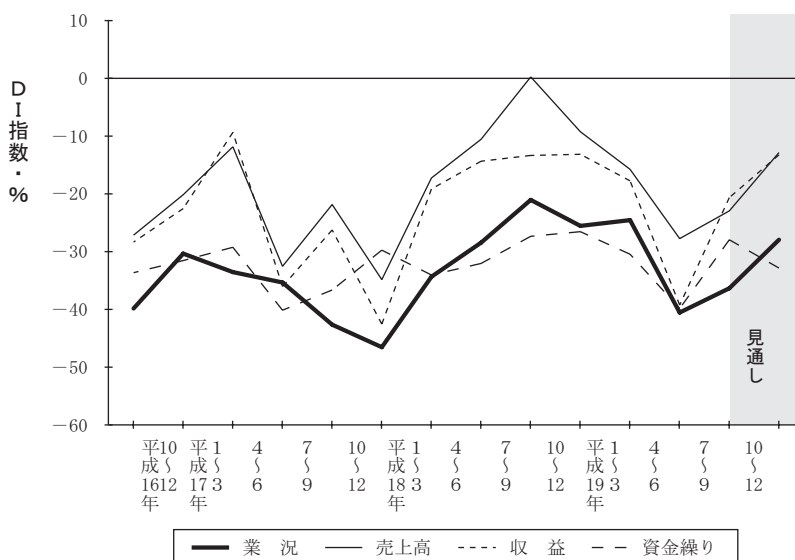


* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、物品賃貸業、洗濯・理容・浴場業、娯楽業で大きく悪化傾向を強めました。一方旅館、その他の宿泊所、自動車整備および駐車場業、情報サービス・調査・広告業で悪化傾向を大きく弱めたため、全体としては-36と5ポイント悪化傾向を弱めました。売上額、収益は減少傾向を弱めました。価格面では、料金価格が下降傾向を弱め、材料価格は上昇傾向を強めました。資金繰りは窮屈感が緩和されました。残業時間は減少傾向を弱めました。人手は不足感がさらに強まりました。設備の状況は不足感が弱まりました。設備投資を実施した先は、事業用土地建物を中心に23%と前期に比べて6ポイント減少しました。

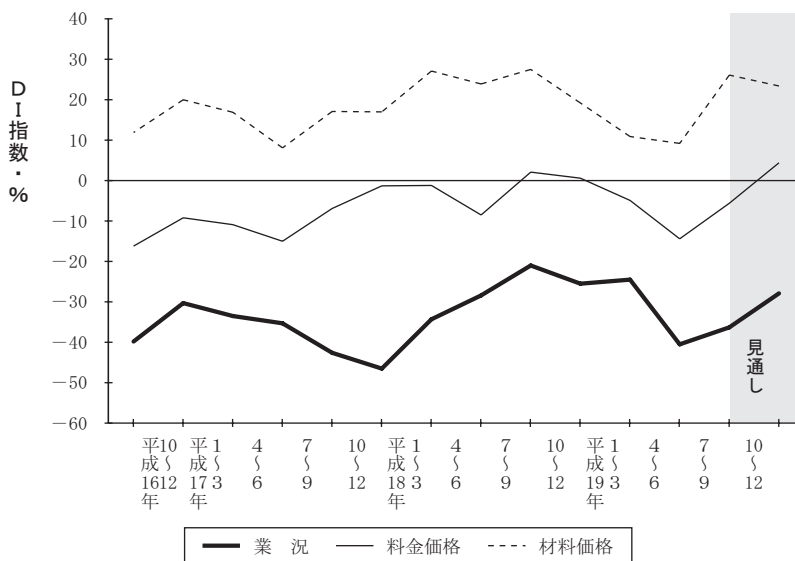
■景況の推移



来期の見通し

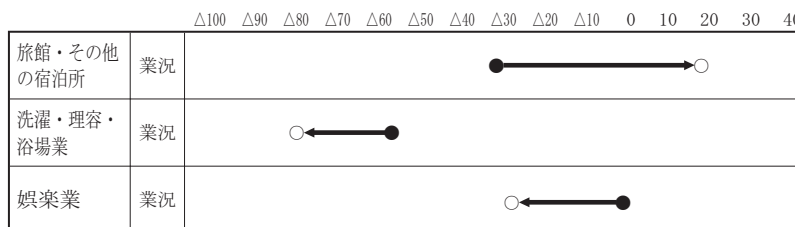
業況は、洗濯・理容・浴場業、自動車整備および駐車場業で大きく悪化傾向が弱まるとみており、物品賃貸業、その他のサービス業でも悪化傾向が弱まるとみています。一方旅館、その他の宿泊所、情報サービス・調査・広告業は大きく悪化傾向を強め、娯楽業もわずかに悪化傾向を強めるとみています。全体的には-28と8ポイント悪化傾向が弱まりそうです。売上額、収益はともに減少傾向を弱めるとみています。価格面では、料金価格は上昇傾向を強め、材料価格は上昇傾向が弱まるとみており、利幅が増加しそうです。資金繰りは窮屈感が強まり依然窮屈な状態は続くと思われています。残業時間は減少傾向を弱めそうです。人手は不足傾向が強まるとみています。設備の状況は不足感が強まりそうです。設備投資については機械設備の更改を中心に27%の先が実施の予定としており、今期に比べて4ポイント上昇し投資意欲はわずかに増加するようです。

■主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

○今期(19年7月~9月) ●前期(19年4月~6月期)



調査員のコメント

- 昨年同時期に比べ売上、収益ともに増加しており業況は良好である。また、同業者間の競争が激化しているが、宣伝・広告の強化や、従業員の教育に注力すれば、さらに業況上向くと考えている。
(ビジネスホテル業)
- テレビドラマ「どんど晴れ」の影響があり、売上は増加傾向にある。
(旅館業)

順位	課題	割合
1位	売上の停滞・減少(1)	62%
2位	同業者間の競争の激化(2)	52%
3位	人手不足(5)	21%

順位	施策	割合
1位	経費を節減する(1)	63%
2位	販路を広げる(2)	40%
3位	技術力を強化する(4)	29%

* ()は前回順位

* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、設備工事業で良好傾向に転じ、総合工事業は27ポイント大きく悪化傾向を弱め、職別工事業でも悪化傾向を弱めました。全体としては-24と14ポイント悪化傾向を弱めました。売上額は増加傾向に転じ、収益は減少傾向を弱めました。受注残も減少傾向を弱め、施工高は減少傾向を強めました。価格面では、請負価格は下降傾向が強まり、材料価格は上昇傾向が強まったことから利幅が縮小傾向になっています。資金繰りは窮屈感が弱まりました。残業時間は減少傾向が強まり、人手は不足感が大きくに弱まりました。設備の状況は不足感が弱まりました。設備投資を実施した先は事業用土地建物を中心に28%となっており、前期より2ポイント増加しました。

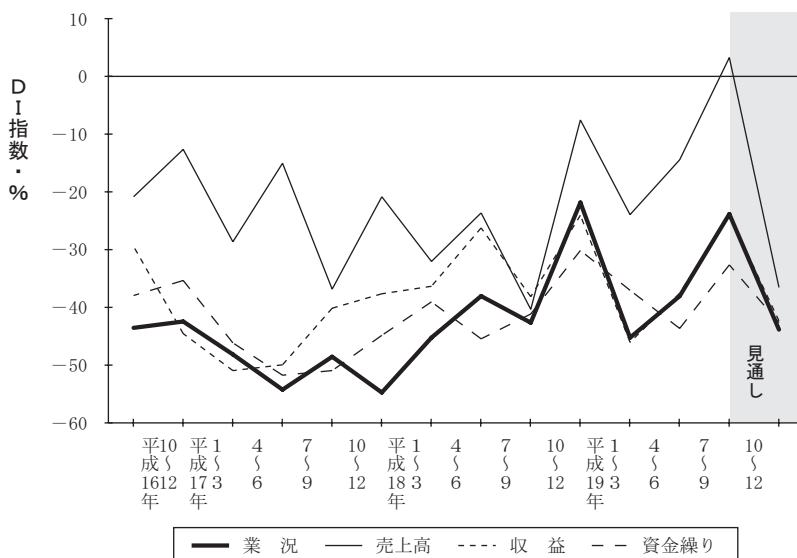
来期の見通し

業況は、今期から一転し、総合工事業、職別工事業、設備工事業で悪化傾向を強めるとみています。全体としては-44と20ポイント悪化傾向を強めそうです。売上額、収益ともに減少傾向を強め、また受注残、施行高も大きく減少傾向を強めるとみています。価格面では、請負価格はわずかに下降傾向を弱めそうです。材料価格は上昇傾向が弱まるとみています。資金繰りは窮屈感が強まり、依然窮屈な状態が続きそうです。人手は今期に比べて過剰感が強まるとみています。設備の状況はわずかに過剰感が強まりそうですが、設備投資については事務機器などで6%の先が実施予定とし、今期より22ポイント減少するとみており、投資意欲は大きく減退しそうです。

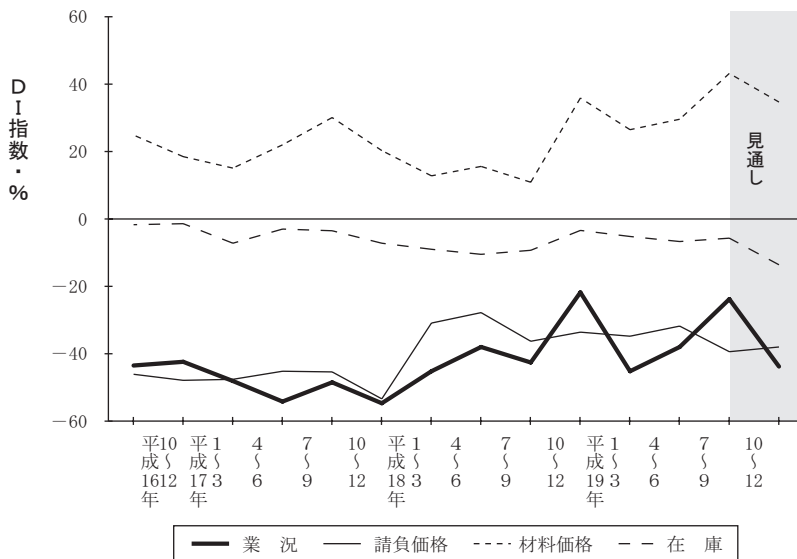
調査員のコメント

- 材料価格が上昇しており収益減少傾向である。受注状況は安定しており、売上は増加している。経費節減に努め利益確保できるようにする。(一般建設業)
- 同業者間の競争により、今後も営業力のある人材を確保し、情報力強化を図っていく。(総合工事業)

■景況の推移



■主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

○今期(19年7月~9月) ●前期(19年4月~6月期)

業種	業況	DI変化
総合工事業	業況	●(前期) → ○(今期)
職別工事業	業況	●(前期) → ○(今期)
設備工事業	業況	●(前期) → ○(今期)

経営上の問題点	1位	2位	3位
	同業者間の競争の激化(1)	売上の停滞・減少(2)	利幅の縮小(3)
	66%	60%	54%

当面の重点経営施策	1位	2位	3位
	経費を節減する(1)	販路を広げる(2)	情報力を強化する(3)
	80%	58%	42%

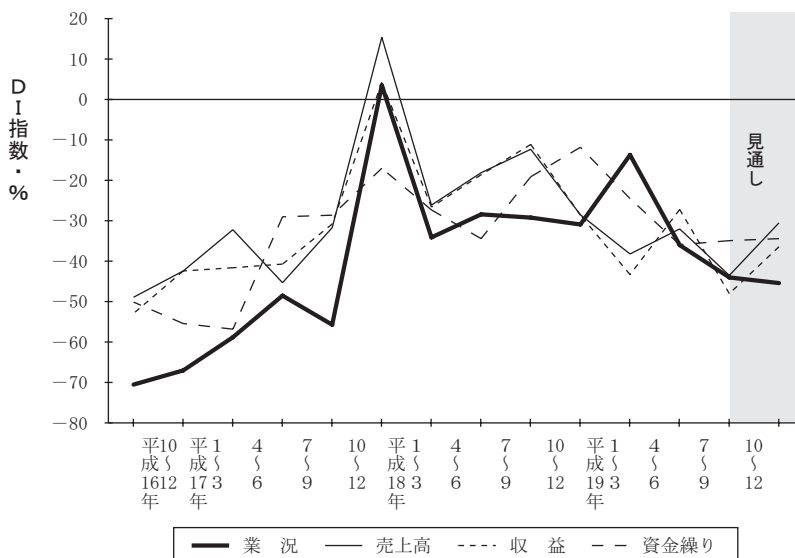
* ()は前回順位

* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、貸家業・貸間業で大きく悪化傾向を弱めましたが、建売業・土地売買業、不動産代理業・仲介業で大きく悪化傾向を強めたため、全体としては-44と8ポイント悪化傾向を強めました。売上額、収益はともに減少傾向を強めました。価格面では、販売価格、仕入価格とも下降傾向を強めました。在庫は不足感が強まり、資金繰りはわずかに窮屈感が緩和されましたが依然窮屈感は続いています。残業時間は増加傾向を強めました。人手は不足感が弱まりました。

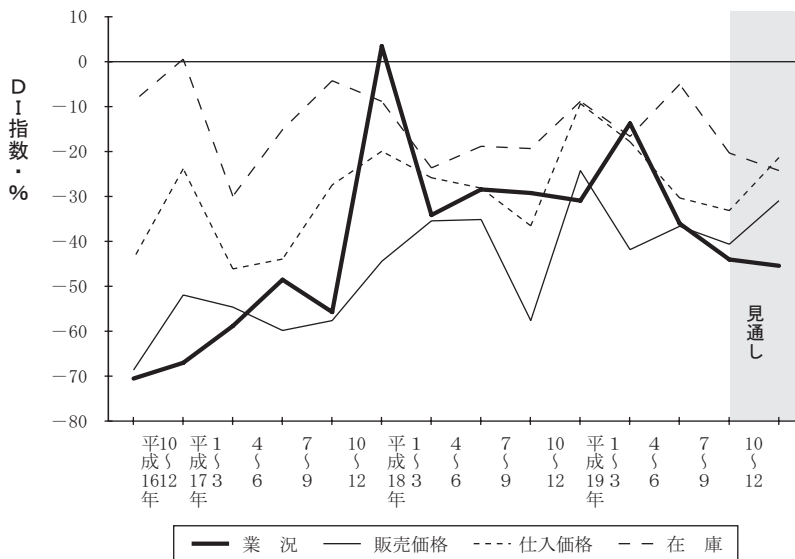
■景況の推移



来期の見通し

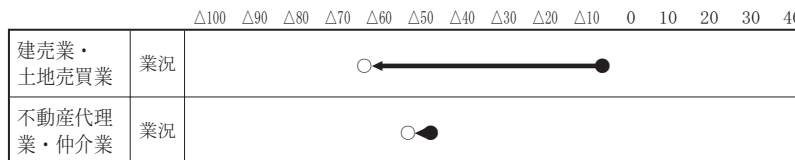
業況は、貸家業・貸間業が良好傾向に転じ、建売業・土地売買業で悪化傾向が弱まるとみえておりますが、不動産代理業・仲介業で悪化傾向が強まるとみているため、全体としては-46と今期に比べて2ポイント悪化傾向が強まりそうです。売上額、収益ともに減少傾向が弱まるとみえており、価格面でも、販売価格、仕入価格とも下降傾向が弱まるとみえています。資金繰りは横ばいで推移するとみえており、窮屈感は続きそうです。在庫は不足感が強まり、残業は減少に転じ、人手は不足感が強まりそうです。

■主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

○今期(19年7月~9月) ●前期(19年4月~6月期)



調査員のコメント

- 不動産取引が低調で売り上げ伸び悩んでいる。中長期先の案件が不足していることから、営業力強化による販路拡大の確保等を心掛けている。(建売業・土地売買業)
- 売上、収益ともにやや減少気味であるが、経費削減や宣伝・広告等の強化に注力すれば無難に推移すると考えている。

(不動産代理業・仲介業)

経営上の問題点	1位	売上の停滞・減少(1)	13社 (68%)
	2位	利幅の縮小(2)	11社 (58%)
	3位	同業者間の競争の激化(3)	8社 (42%)

当面の重点経営施策	1位	情報力を強化する(2)	15社 (79%)
	2位	経費を節減する(3)	10社 (53%)
	3位	販路を広げる(1)	8社 (42%)

* ()は前回順位 * 対象企業総数は19社

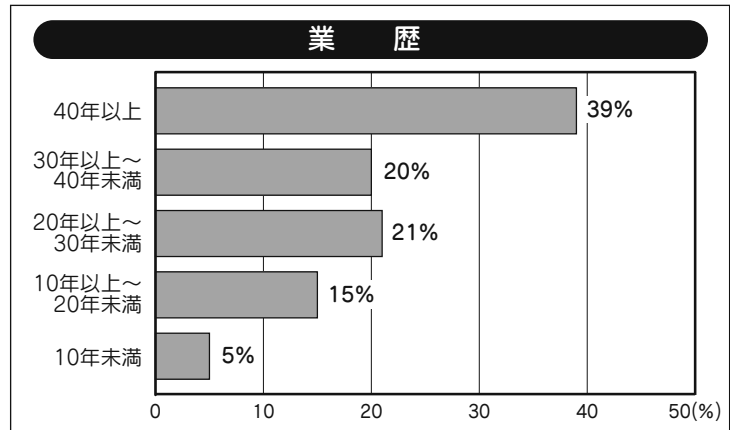
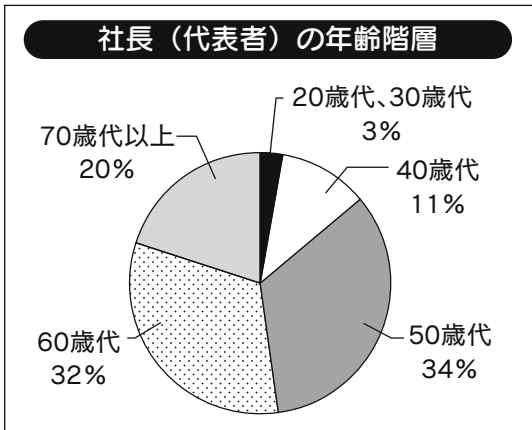
中小企業の事業承継について

中小企業の事業承継について、どのように認識し対応をしているか、また問題となることや、円滑な事業承継のため金融機関や行政に期待することなど、中小企業経営者の皆さまにお聴きしました。

(回答数342先)

- 貴社の社長(代表者)の年齢階層はいずれに属しますか…「50歳代」が34%
- 貴社の業歴はいずれに該当しますか…「40年以上」が39%

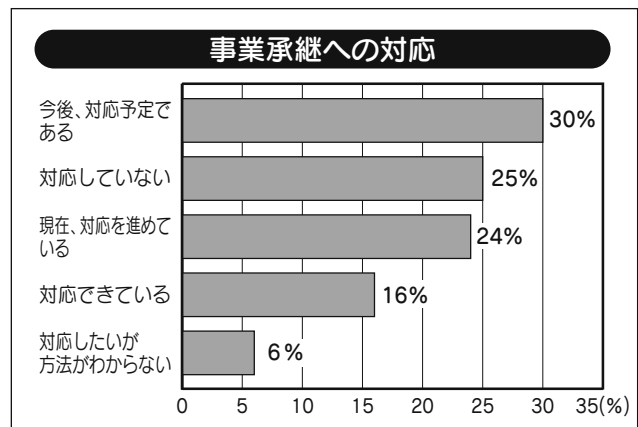
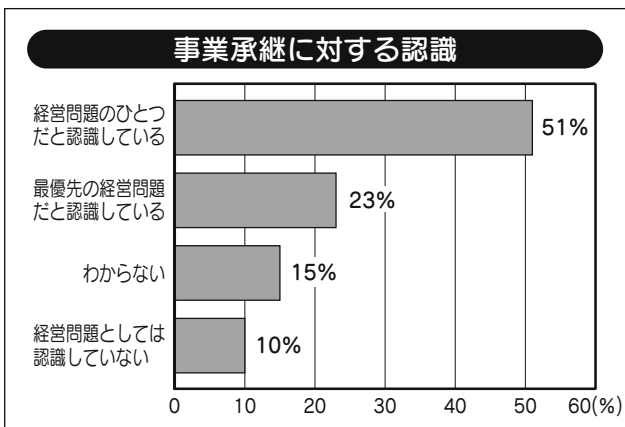
社長(代表者)の年齢階層については、「50歳代」が34%と最も高く、次いで「60歳代」が32%、「70歳代以上」が20%、「40歳代」が11%となっています。業歴については、「40年以上」が39%と最も高く、次いで「20年以上～30年未満」が21%、「30年以上～40年未満」が20%、「10年以上～20年未満」が15%となっています。



- 貴社にとっての事業承継に対する認識はどのようなものですか…「経営問題のひとつ」が52%
- 貴社の事業承継への対応はどのようなものですか…「今後、対応予定である」が30%

事業承継に対する認識については、「経営問題のひとつだと認識している」が51%と5割を超え最も高くなっています。次いで「最優先の経営問題だと認識している」が23%となっており、「わからない」と「経営問題としては認識していない」の25%に対して、7割強が事業承継に対する認識を持っています。

事業承継への対応については、「今後、対応予定である」が30%と最も高く、次いで「対応していない」が25%、「現在、対応を進めている」が24%、「対応できている」が16%、「対応したいが方法がわからない」が6%の順となっています。対応予定を含めて、対応できている先が7割となっています。



■中小企業において、社長(代表者)から後継者へ事業承継しようとする際に、どのようなことが問題になると考えられますか…「事業の将来性」が30%

社長(代表者)から後継者へ事業承継しようとする際の問題については、「事業の将来性」が30%と最も高く、次いで「後継者の力量」が25%、「取引先との信頼関係の維持」が13%、「借りに際しての個人保証」が7%、「候補者の不在」「相続税などの税金対策」が6%、「先代経営者の影響力」が5%の順となっています。

(単位：% 複数回答)

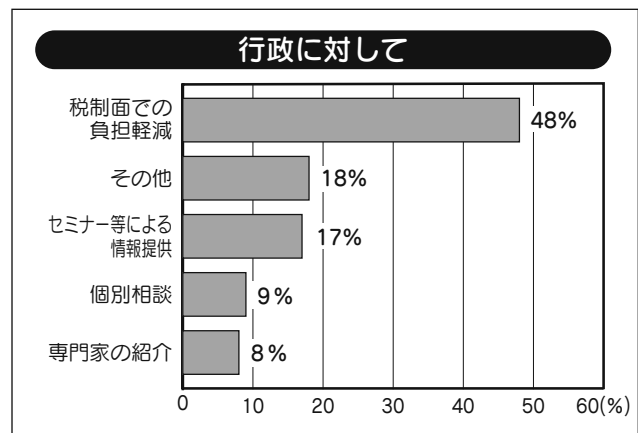
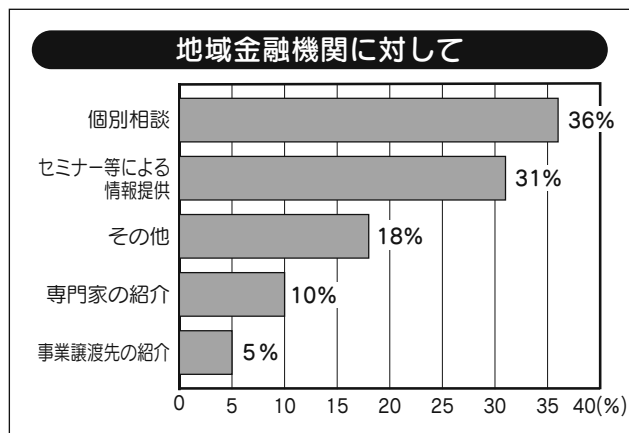
	製造業	卸売業	小売業	飲食業	サービス業	運輸業	建設業	不動産業	合計
事業の将来性	34	34	32	28	27	23	25	28	30
後継者の力量	21	23	26	19	25	23	29	28	25
取引先との信頼関係の維持	18	11	9	5	11	20	18	11	13
借りに際しての個人保証	5	9	9	9	3	10	7	4	7
候補者の不在	5	0	6	12	7	10	7	4	6
相続税などの税金対策	7	7	6	5	8	0	3	4	6
先代経営者の影響力	5	5	2	7	6	7	7	9	5
その他	2	0	6	11	4	0	2	7	4
自社株など個人資産の取り扱い	2	7	3	2	6	3	3	4	3
社員の不平・不満	0	5	2	2	3	3	1	0	2

■中小企業における円滑な事業承継のために、地域金融機関に対して期待することは何ですか…「個別相談」が36%

■中小企業における円滑な事業承継のために、行政に対して期待することは何ですか…「税制面での負担軽減」が48%

円滑な事業承継のために地域金融機関に対して期待することについては、「個別相談」が36%と最も高く、次いで「セミナー等による情報提供」が31%、「その他」が18%、「専門家の紹介」が10%、「事業譲渡先の紹介」が5%の順となっています。

円滑な事業承継のために行政に対して期待することについては、「税制面での負担軽減」が48%と最も高く、「その他」が18%、「セミナー等による情報提供」が17%、「個別相談」が9%、「専門家の紹介」が8%の順となっています。

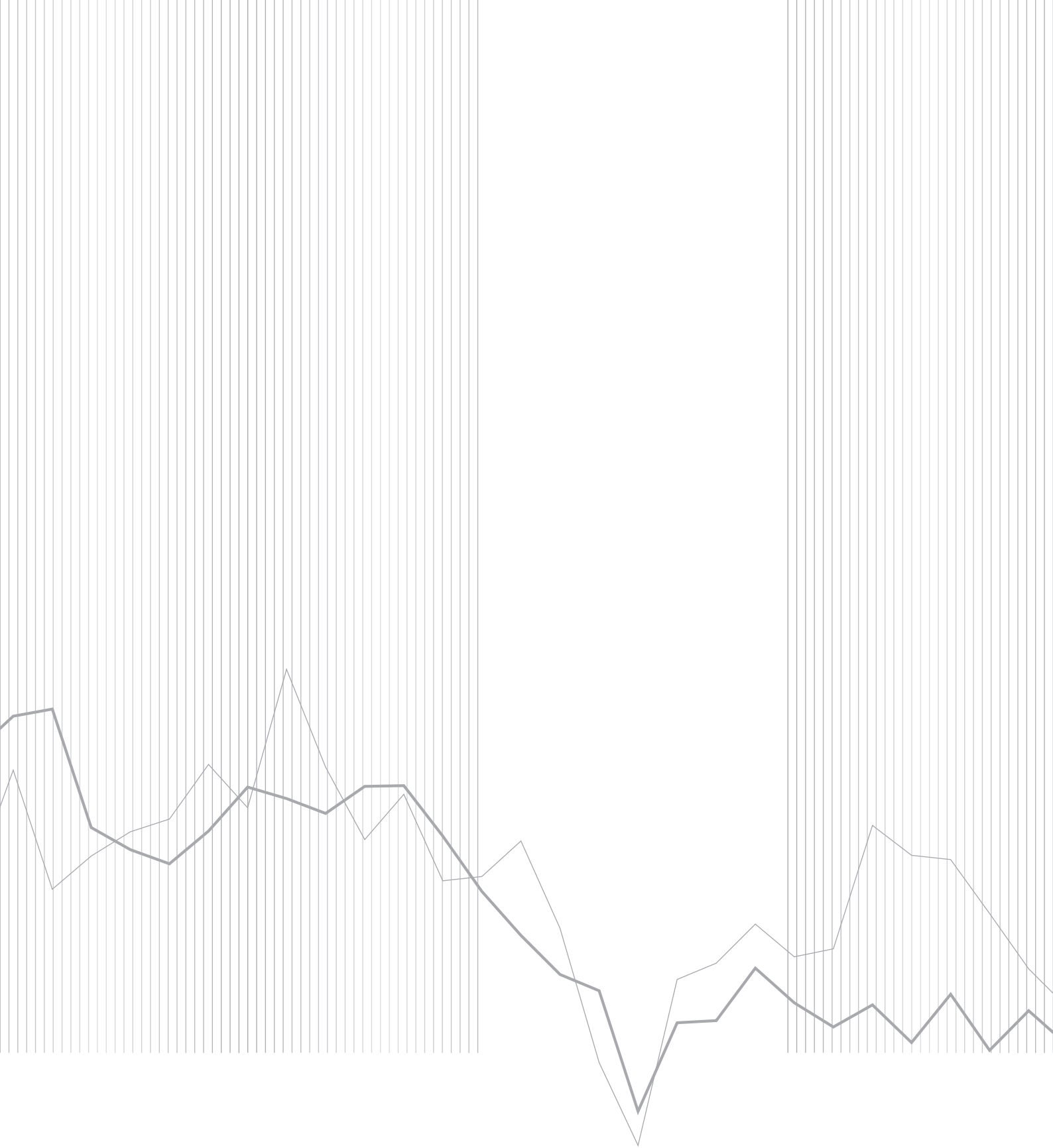


■中小企業におけるM&A(第三者への事業譲渡)について、どのような認識を持っていますか…「よくわからない」が18%

M&A(第三者への事業譲渡)についての認識については、「よくわからない」が18%と最も高く、次いで「従業員の雇用維持に不安がある」が17%、「乗っ取りなど負のイメージがある」が12%、「従業員の雇用維持に不安がある」が11%、「事業拡大戦略の1つである」が10%、「従業員の雇用を維持できる」が9%、「事業を最適な先に譲渡できる」が8%の順となっています。総体的に「よくわからない」「不安」等が上位を占めています。

(単位：% 複数回答)

	製造業	卸売業	小売業	飲食業	サービス業	運輸業	建設業	不動産業	合計
よくわからない	15	5	24	50	11	10	12	16	18
従業員の雇用維持に不安がある	15	18	19	11	17	15	19	16	17
乗っ取りなど負のイメージがある	13	20	12	2	16	25	9	5	12
従業員の雇用維持に不安がある	10	18	7	5	13	20	14	16	11
事業拡大戦略の1つである	6	8	12	11	12	0	11	16	10
従業員の雇用を維持できる	10	5	8	2	11	10	12	5	9
事業を最適な先に譲渡できる	9	10	7	7	7	10	8	14	8
専門家の支援が必要なものである	9	13	6	5	5	0	13	3	7
取引関係を維持できる	11	5	3	5	8	5	3	8	6
その他	2	0	1	2	1	5	0	0	1



もっしん

■企画・編集

盛岡信用金庫 企画部

019-623-2221

〒020-8641 盛岡市中ノ橋通1-4-6